

2020 年度 男子バレーボール部 メンバーインタビュー

部員数	20人以下	主な成績
所属学群	体育専門学群	第72回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 準優勝
練習場所	球技体育館	第38回東日本バレーボール大学男女選手権大会 優勝 第74回国民体育大会 第5位

安藤誠弥(体育4年/主務)

木田大智(体育2年)

— 私が目指す「バレー」

安藤

自分は、手を抜くことが嫌いです。バレーボールはボールを落とすと失点する競技です。だからこそ、絶対に「目で追わない」ことを意識しています。自分が動かずに、目で追ってボールが落ちてしまうと失点する。だからこそ、絶対にボールが落ちるまで諦めない。これをモットーにプレーすることで、チームに影響を与えられるような人間になることを意識しています。

木田

見ている人をワクワクさせられるようなバレーをチームで体現したいと思っています。筑波の男子バレーボール部はとてもレベルが高く、全国でもトップレベルの成績を残しており、日本一を目標に活動しています。私自身は、一般入学からこのチームに入部して、一般からの入部でもできること、それをいろんな人に見てもらい、元気を与えられるようになりたいです。



— 筑波大学をどう思っていた？

安藤

筑波大学はネームバリューがあり、頭がいい、スポーツもトップレベル、練習も勉強も大変という印象でした。入学するまでは、大学なのにカチツとしているイメージがありました。

入学して今感じていることは、成長するも腐るのも、自分次第。

高校生までに比べて自由度があり、その中で、授業や部活、自分にとってプラスになることばかりです。その中でどう自分を成長させるか。そのことを考えておかないと、誰も教えてくれない。自分でやる、そうすることで成長するなと感じています。

木田

筑波の体育専門学群を志望した理由として、幼い頃からスポーツをやっていて、スポーツを専門的に学びたいと思ったという点があります。そして、日本でもトップレベルのスポーツを学べる大学ということで、昔から筑波を目指していました。また、部活動のレベルが高い点も志望理由の一つでした。

実際に大学では、自分から動いていかないと大学生活はうまくいかないと感じています。高校の頃までのように、自然と近くの人と繋がり関係が生まれるような環境とは違い、大学は積極的に働きかけていくことで、広くいろんな刺激を受けられる、さらには他の学群の学生とも関係が生まれます。だからこそ、待っていては何も得られない。主体的に動くことが大学だと思います。

— 今のチームで学んだこと、チームの好きなところ

安藤

練習も大変な中で、筑波のバレー部は「みんなで乗り越えよう」というチーム、自分だけじゃない、チーム全員で乗り越えていくところがいいなと思っています。

高校生の頃までは、自分さえ良ければいいと思っていました。自分が活躍して、自分がスパイクを決めたいなど。しかし、バレーボールはチームスポーツです。みんなが繋いでくれたからスパイクができる。小学校からバレーをやってきたが、大学で初めてバレーボールはチームスポーツだと、みんながいるから自分がスパイクを打てるということを、すごい感じられるようになりました。

「絶対に一人にしない」チーム。辛いことがあっても、周りにチームメイトがいます。みんなで声を掛け合って、一つの山を乗り越えようというチーム、それがいいところです。

木田

チームで学んだことは、「人と人との繋がり」です。これまで以上に、同期や縦の繋がりが大切なもので、卒業後も長く続いていくことを実感しています。だからこそ、繋がり大切さをチームでは学んでいます。

私自身、個人競技をやっていた経験もあり、自分中心の考え方になることもありましたが、試合に出れない中でも貢献できるように動く、サポートする事の大切さを学んでいます。

チームの好きなところは、バレーへの情熱が、どこの大学よりも熱い所です。練習でもメリハリがあり、活気があり、時には叱咤激励もある中で、学生主体で動いています。そのどんな場面にも見られる、競技に対する熱さが好きな所です。



— これからの目標(直近の目標、人生の目標)

安藤

チームの目標は「全日本インカレで絶対に日本一になる」です。

個人的には、小学校からバレーをやってきて、日本一になったことがありません。大学では、これまで2度決勝に進出したのですが、2度とも早稲田大に負けました。早稲田が今、3連覇しています。絶対に4連覇はさせないという想いで燃えています。今年の優勝候補も早稲田だと思います。他大学も強いですが、決勝で早稲田と戦い、大田区のセンターコートで早稲田に勝つ。チームとしての目標でもあります、個人的にもこれが目標です。

また、今は主務として、プレーをしながら、チームのマネジメントや、各学年の細かいサポートをしています。これからは大学院に進学して、後輩が頑張っている男子バレー部にコーチとして所属できればと思っています。大学院では、戦術を始め、バレーボールのことをもっと勉強したいです。

そして、いつかは高校の教員、自分が監督になったチームで日本一を取れるような指導者になりたいです。

木田

今の自分の目標は、ベンチ入りし、2番手のリベロとして選手登録される事です。ベンチに入るだけでなく、上級生になっていく中で、これからどういう風にチームのマネジメントに参加していくか。プレーだけでなく、マネジメント面でもチームを支えられるようにしていきたいです。

将来は、どんな職業に就いたとしても、このチームでの活動を通して身につけたスキルを発揮したいと思っています。

— 未来のチームメイトに一言

安藤

筑波の男子バレーボール部に入部して、いろいろ苦しいことやしんどいこともありましたが、もちろん楽しいこともありました。小学校から高校まで振り返っても、大学入学してからの期間、こんなに成長した期間はないです。こんなに成長した期間はないと言い切れるほど、このチームで成長しています。悩んでいるなら、絶対に入るべきだと思います。

このチームでは、バレーボールがうまくなるだけでなく、人として成長できます。活動の中で様々なことを勉強できて、自分は成長することができています。

悩んでいるなら、バレー部に入部するべきだと思います！自分は、入部してよかったと思っています。

木田

筑波の体育専門学群、男子バレーボール部を志望することは、なかなかレベルの高いことだと思いますが、高く良い目標だと思います。絶対に入りたいという覚悟を持って望んでください。後輩として皆さんが入部し、私たちと一緒にこのチームでプレーできる日が来ることを願っています。

大学4年間というのは人生の中では短いかもしれませんが、このチームで学べることは、これからの人生で何十年も生き続けることです。だからこそ、この4年間、ここに懸けることはいいことだと思います。筑波の男子バレーボール部を是非よろしくお願いします。

